

令和4年度事業報告

今年度も収束の見えない厄災に多大な影響を受けながらも各分野実績確保に諸施策を駆使し取り組みましたが、前年割れの結果となってしまいました。

受注部門は受託事業が97.0%・労働者派遣事業が93.6%と、全体では95.4%の達成率で、誠に不本意な結果となり猛省の極みであります。

事業運営の柱である**会員の拡大増強**については重点課題として取り組んだにも係わらず、入会者65名に対し退会者が86名と、結果として21名の減で、年度末における会員数は421名となりました。退会理由は主に高齢化、体調不良、介護等説得不能の部分が多くを占め、繁忙期には要員不足による就業ロスが生じるなど、女性会員を含めた「新規会員確保」は、引き続き最重要課題として取り組む必要があります。併せて、地域班や職群班の班長やリーダーなどの幹部候補等のなり手不足等、運営の根幹に係わる問題も抱えるなど、事業の継続性からも人材育成や後継者育成も重要な課題となっています。

安全適正就業については、「安全は全てに優先する」とのコンセプトから基本講習会・安全パトロールの実施や安全委員会の活動等により会員の安全意識の浸透が図られ、前年を大きく下回る9件の発生に抑えることができました。

一方、長引くコロナ禍の影響を受け、行事・イベント等の各種交流機会が中断され、会員相互の**親睦・協調**の良きシルバーの伝承が薄れ、就業外の繋がり、楽しみ潤いの部分が無くなり、魅力ある高齢者団体とは言えなくなったとの声や、班内や職群チーム内での不協和音も一部に囁かれております。

次年度は、当センター創立20周年の節目にあたります。諸悪の根源の厄災の収束を願うとともに、これを機に体制を再構築し、積極攻勢策で活性化を推し進める富谷市の勢いと施策に呼応し、公・民バランスを図りながら、まだまだ埋蔵されているニーズを掘り起こし、受託事業の拡大・個人・家庭・独自事業のボリュームアップ等拡大を図ってまいりましょう。そして、もう一度高齢者のフランクな「居場所づくり」「出番づくり」の原点を取り戻し、内外共に評価・信頼される**実力あるセンター**を会員総意で創りあげましょう。

○令和4年度事業計画と事業実績、達成率

項 目	事業計画	事業実績	達成率
正 会 員	470 人	421 人	89.6%
受注件数	1,500 件	1,308 件 (内派遣 67 件)	87.2%
受注契約金額	250,000 千円	238,507 千円	95.4%
(受託事業)	(133,000 千円)	(128,946 千円)	(97.0%)
(労働者派遣事業)	(117,000 千円)	(109,561 千円)	(93.6%)
就業延人員	45,000 人日 (内派遣 21,000 人日)	44,390 人日 (内派遣 21,144 人日)	98.6%
就 業 率	93%	92.6%	99.6%
粗 入 会 率	3.30%	2.89%	87.6%

1. 就業開拓提供事業

より多くの会員に就業の機会を提供するために、高齢者の知識、技能、経験を把握分析し、法令遵守を念頭におきながら、お客様、地域のニーズに対応する仕事の受注を目指すため、以下のことを実施した。

(1) 理事・会員・職員による就業機会の開拓

(事業所訪問、一般家庭訪問、会員の口コミ等)

2. 普及啓発事業

地域社会にシルバー事業への理解と高齢者の加入促進を図るため、以下のことを実施し、また独自事業「ギャラリーなごみ」を移転新規開業し、しんまち通りの活性化に貢献するとともに女性会員の就業の場を創出した。

(1) 普及啓発月間における活動

(2) 会報の発行

(3) ホームページによるタイムリーな情報公開

(4) 広報紙に会員募集を掲載

(5) 「ギャラリーなごみ」の富谷市広報、新聞、雑誌への掲載、テレビ等での放映

3. 調査研究

会員の就業率の向上、発注者に対するサービス（マナー）内容の改善・充実、さらには新たな就業等の活動機会開拓の方策を実施するために行っており、以下のことを実施した。

(1) お客様満足度調査の実施(個人発注者及び企業に対するアンケート調査)

(2) 役員研修会の実施

ア. 東北シルバー人材センター連絡協議会の役員研修会を受講

○演題「令和時代のシルバー人材センター事業」

講師 全国シルバー人材センター事業協会 専務理事 姉崎 猛氏

○演題「持続可能な開発目標 SDGs とシルバー人材センターとの関りについて」

講師 岩手県立大学 名誉教授 渋谷 晃太郎氏

イ. 個人情報保護法について

4. 相談事業

一般高齢者及び会員、育児支援利用者を対象に、以下のことを実施し、就業等に関する情報を提供した。

(1) 入会説明会 毎月 1 回開催(1～3 月は 2 回)

(2) 就業相談 随時

(3) 育児支援相談 随時

(4) 家事支援相談 随時

(5) 会員対象に面談を実施 随時

5. 安全・適正就業の推進

仕事の品質の向上と確保を図り、事故ゼロ・クレームゼロを目指し、顧客の信頼向上に努める。毎月1日と15日を「安全の日」と定め安全意識の高揚を図り、また各就業現場において危険予知活動を行い、事故を未然に防ぐよう努めた。

- (1) 毎月安全・適正就業委員会の開催
- (2) 安全パトロールの実施(年間10回実施)
- (3) 各種安全講習会の実施
- (4) 安全就業推進計画の遂行
- (5) 安全・適正就業推進大会の実施
- (6) 安全標語の募集及び表彰
- (7) 適正就業の普及推進(派遣事業の拡大強化)

6. 会員増強の促進

事業計画の目標値をもとに、会員の加入促進を図った。

- (1) 入会説明会の実施(毎月1回)
- (2) 市広報紙への会員募集の記載

7. 独自事業

当センターの特徴的な事業として、書道教室の運営や小物製作販売「ギャラリーなごみ」の運営をおこなっている。これらの事業は、地域の方々にご利用いただき、地域活性化及び交流の場の提供として貢献した。

(1) 書道教室

毎月2回、大人の部8名と子供の部10名の生徒で各教室を開催した。

(2) 小物製作販売「ギャラリーなごみ」

ア. テレビ放映等の広報効果により、来客数や他センターからの視察も増え、女性の就業拡大に繋がった。

イ. なごみの「縁側の美術館」にて、会員による作品展示会を行い、会員同士の交流の場となった。

8. 福祉・家事援助サービスの推進

市が推進する子育て支援事業の託児業務や、高齢者世帯の増加が進む中で、地域住民の福祉ニーズに応えられるよう、福祉家事援助サービスに対応できる会員の加入促進を図った。

(1) 育児支援サービス

ア. 子育てサロン「ほっと育く」の継続運営

イ. 子供の一時預かり

ウ. 富谷市母子保健事業託児委託業務

(2) 家事援助サービス

ア. 高齢者及び子育て世代への家事援助

(3)ワンコインサービス

ア. 富谷市地域包括支援センターとの連携で就業拡大

9. 社会参加活動の推進

「自主・自立、共働・共助」の精神を高めるためにも、ボランティアや社会参加を通して、地域社会への貢献と連携を深めた。

(1)子供達の安全・安心を守る巡回活動を各地区で実施した。

(2)「シルバーの日」に各公民館等の清掃活動を実施した。

(3)セツ森ハーフマラソン大会において、選手の荷物預かり作業を実施した。

10. 富谷茶による地域活性化と会員就業創出事業の取組

5月に茶摘み式を実施し、既存の茶畑と新茶木より茶葉を収穫し、「焙炉(ほいろ)」により製茶作業を行った。

10月には「街道まつり」で富谷茶事業の活動紹介と来場者へ富谷茶を振る舞った。

年間を通して、既存の茶畑及び幼木茶畑の管理を行った。

市より富谷茶復活プロジェクト事業肥培管理等の業務を継続して受託した。

11. 事業運営の効率化及び健全財政の推進

事業運営にあたって、業務の効率的運営を図り、また公益目的基準に適合するよう健全な財政運営に取り組んだ。

(1)不要支出の洗い出し

(2)消費節約の励行

(3)会計基準の変更による、内部監査の実施